

今、何の病気が流行しているか！

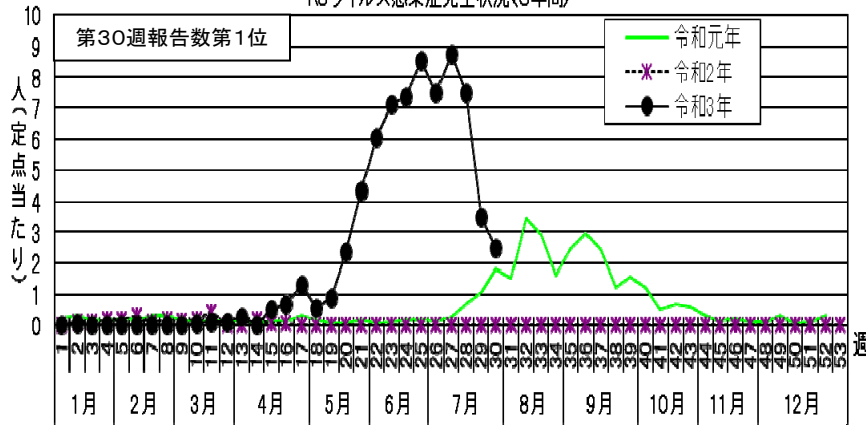
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年7月26日（月）～令和3年8月1日（日）〔令和3年第30週〕の感染症発生状況

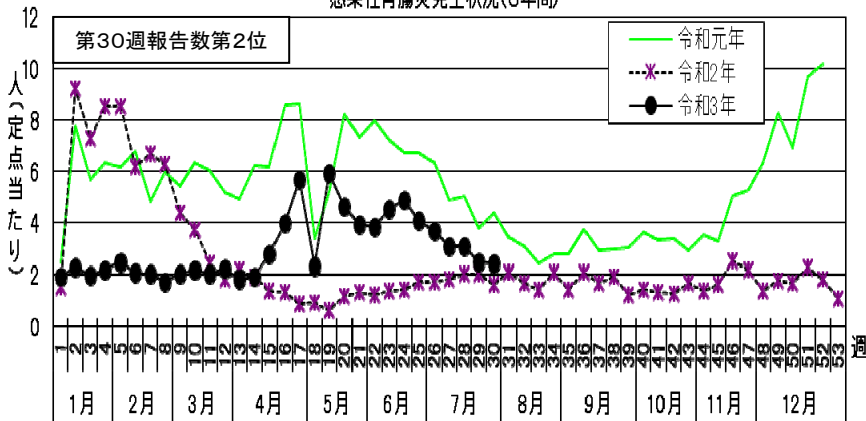
第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) RSウイルス感染症 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.49人と前週(3.51人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.41人と前週(2.46人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.49人と前週(0.43人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



RSウイルス感染症発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



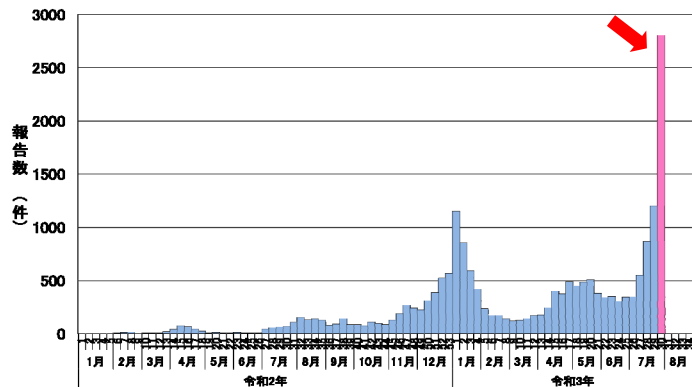
新型コロナウイルス感染症～2週連続過去最多を更新～

川崎市における令和3年第30週(7月26日～8月1日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は2800件と、前週の1201件から2倍以上に増加し、2週連続で過去最多を更新しました。

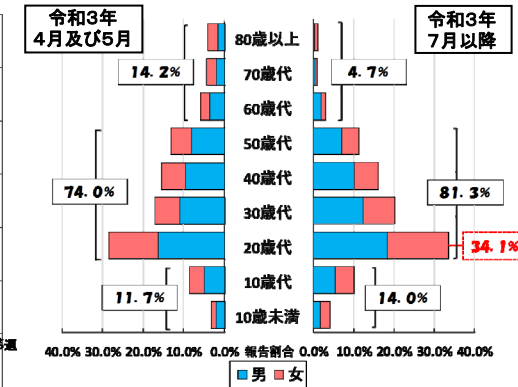
令和3年7月以降の状況を、第4波の初期(令和3年4月及び5月)と比較すると、20～50歳代の報告数の割合は74.0%から81.3%と増加し、特に20歳代が34.1%と最多でした。一方、ワクチン接種が進んでいる60歳以上の割合は14.2%から4.7%と、大幅に減少しました。

ワクチン未接種で、基礎疾患がある方や中高年の方は重症化するリスクが高いため、予防対策の徹底を心がけましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年第1週～令和3年第30週)



川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別性別発生状況の比較



令和3年8月3日9時時点のHER-SYSデータより作成